

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------------|-------------|
| 事業所番号 | 4071700555 | | |
| 法人名 | 有限会社 王子苑 | | |
| 事業所名 | グループホーム 王子苑 | | |
| 所在地 | 〒822-0001 福岡県直方市感田1040番地4 | Tel 0949-26-4245 | |
| 自己評価作成日 | 平成29年08月10日 | 評価結果確定日 | 平成29年09月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の高齢化と共にADLの低下や認知症の重度化が重なり、苑の目標である“自分の足で歩こう”が難しくなる。“自分の足で歩こう”という目標を持ちながら、室内でのリハビリが個人のプランとして充実している。(起立運動、滑車を使って上肢上下運動、自転車こぎ、握力をつけるためのボール握り、散歩、拘縮予防のため上下肢屈伸運動等)モップ掃除、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、洗い物手伝い等の生活リハ。利用者様の楽しみの一つがおいしい食事というもアピールしたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「王子苑」は、自然環境に恵まれた高台の住宅街の中にある1ユニット(定員9名)のグループホームである。苑長、副苑長の、当たり前の手を抜かずに行う姿勢に職員が応え、掃除の徹底で気持ち良く暮らせる環境と愛情込めた美味しい食事を提供し、利用者の食欲増進に取り組んでいる。「生涯自分の足で歩こう」を目標に、滑車や自転車こぎ、散歩等、それぞれの力に応じたりハビリを支援し、入居後、生き生きと元気を取り戻す利用者の姿を見た家族からは、大きな感謝と信頼の言葉が寄せられている。経験の長い介護職員によるきめ細かな健康管理や服薬の支援、ホームドクターと連携し、安心の医療体制が整っている。広いリビングに、「老いを美しく過ごしましょう」と掲げ、苑のシンボルである大きな楠の柱を囲んで、黙々とリハビリに励み、役割(調理、モップ掃除、洗濯ものたたみ等)を持って生き生きと暮らす利用者、職員が笑顔で寄り添い、利用者本位の介護サービスの提供に取り組む、「グループホーム 王子苑」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|------------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 | Tel 093-582-0294 | |
| 訪問調査日 | 平成29年09月08日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝ミーティングの時に、理念をスタッフ一同声を出して言い、新たな気持ちで一日をおくる。 | 「入居者のプライバシーと尊厳を守ります」「入居者の能力と機能回復の支援をします」「家族や友人の訪問を歓迎し社会参加をします」を理念として掲げ、見やすい場所に掲示している。毎朝の申し送り時に唱和して、理念の共有に努め、職員は理念を柱としてまとめ、実践に繋げている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入っている。ゴミ出し当番など順番が回ってきて利用者と一緒に片付けたりする。近所が留守の時など見守りを頼まれたり、庭木の剪定、駐車場の提供などの交流がある。 | 町内会に入会し、地域の一員として、利用者と一緒にゴミ出し当番に取り組んでいる。地域の行事や活動に協力したり、ホームに地域のボランティアが来訪する等、交流の輪が広がっている。また、ホームの周りが高齢者世帯が多く、見守りや庭木の剪定、駐車場の提供等、日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 電話相談の応じたり、地域のボランティア、民生委員と連絡を取り合って支援している。 管理者が自治会の行事に参加し協力、支援している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会は58回ほど開いたが、その際外部評価の報告をし、改善点なども示したり、民生委員との連携で情報をキャッチして入居となった人もいる。 | 運営推進会議は、家族代表、地域代表、他事業所、市保険課、地域包括支援センター職員が参加して2ヶ月毎に開催している。入居者の状況報告を行い、非常災害対策を議題に挙げて説明し、参加者から質問や意見、アドバイスを受けている。出された意見は検討し、サービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 認定申し込み時などに役所に行き、入所についての話や包括のケアマネに通所施設を紹介したり、来苑した相談者の情報などを、市に報告している。 また、役所開催の説明会、懇談会などに参加して意見交換している。 | 苑長は、行政主催の会議や懇談会に参加し、意見や情報交換を行い、連携を図っている。運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け、ホーム運営や業務改善に活かせるよう取り組んでいる。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の事例はなく、スタッフの身体拘束に関する正しい認識については苑長からシュミレーションを実践しての説明や勉強会によって、正しく理解するよう取り組んでいる。マニュアルもある。 | 定例会や勉強会の中で身体拘束について学ぶ機会を設け、職員全員が正しく理解できるよう努めている。具体的な事例を挙げて、一つ一つ確認しながら検証し、身体拘束についての知識と意識の統一に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者が高齢者虐待防止のマニュアルを作り、当苑にとって現実に起こりうる可能性などの事例をあげ、勉強会を開いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 実際に成年後見人となり身内の世話をしていた職員がいて定例会で勉強会を設けた。現実の複雑さを目の当たりにしたが、必要な制度であるということに改めて感じた。 | 現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者はいない。身内の成年後見人の経験がある職員による勉強会を行ない、制度の周知に努め、今後、益々重要になる制度である事が認識できた。また、必要時には、制度に関する資料を用意して説明し、制度が活用できるよう支援している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分に説明し理解してもらっている。入所時には他の施設の見学を勧めて納得してもらい、退所時は不安のない様に他の施設を紹介している。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者にはケアプランをたてる時や日頃の話の中から気持ちをくみ取ったり、家族は来苑時、運営推進委員会出席時などから意見要望を聴き、運営に反映している。 | 利用者については、日常の関わりの中で、意見や要望を聴いている。家族については、家族面会や家族会、運営推進会議等の機会に話す機会を設け、利用者の暮らし振りや健康状態を報告し、家族から意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1度の定例会を通じ職員との意見交換をして運営に反映している。 | 全員参加の定例会を月一回開催し、苑長、副苑長は、職員の意見や提案が出しやすい雰囲気作りに努め、一人ずつ意見を聴いている。出された意見は、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。また、日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、意見を十分に聴き、職員のストレス解消に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の就業状況を把握して資格、役職手当を付けたり賞与で差をつけたり、努力ややりがいを惹起している。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 性別、年齢を理由に排除はしない。向上心のある職員は看護学校進学を勧めたり、色々な国家資格を取れるように応援している。 | 職員の募集、採用にあたっては、人柄や介護に対する想いを優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、内部での勉強会の充実を図り、外部研修受講や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働く事ができるよう支援している。「職員に長く働いてもらいたい」との、苑長、副苑長の思いから、職場環境を整え、職員一人ひとりの努力を認め、やりがいを持って働けるよう配慮している。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権の研修を職員が受け定例会の勉強会のテーマとして教育、啓発に取り組んでいる。 | 人権の外部研修に参加した職員が、定例会の勉強会で報告を行い、利用者の人権を尊重する介護サービスについて話し合い、共通認識に努めている。理念に、利用者のプライバシーと尊厳を守ることを掲げ、毎日唱和する事で意識づけを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外各種の研修を職員交替で受けている。介護、看護の手技、薬の知識などは管理者から適宜指導がある。職員は全員参加とし苑内での会議録、資料もある。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームの見学や特別養護老人ホームなどで研修をさせてもらったりはした。他のグループホームのケアマネージャーと交流し、お互いに相談したりしてサービスに生かしている。また、満室の場合は他のグループホームや小規模多機能施設を紹介している。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | インテーク面接を重視して本人の要望や不安をよく聴き安心して暮らしていけるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 苑長、副苑長、職員をはじめ、家族と多くの時間を取り、家族の悩みに寄り添って理解し、苑を信頼して頂ける様努力している。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメントで課題を見極めケアプランを立てて支援の順番を見極めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者が人生の中で培った知識や教養、経験等を機会があるたびに披露してもらって職員も勉強している。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ケアプランに本人、家族の意向を積極的に取り入れている。病院受診、散歩、外出支援などに協力してもらっている。利用者との会話の中で家族の話を行い、自宅の住所、子供、嫁の名前などを忘れない様に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の知人が面会に来やすいように家族などに協力してもらっている。 | 訪れやすい雰囲気作りを心掛け、利用者の家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、利用者の馴染みの人との時間を大切にしている。家族の協力を得て、法事や身内の方との外食に出かける等、利用者の馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士がお互い思いやりスタッフに色々な情報を伝えてくれる。孤立している人はいなく仲が良い。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 移行した次の施設には2,3回必ず面会に行き、本人の状態を見極めている。現実、家族の希望だから本人の満足に繋がられているか疑問もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自分の希望を言える人は、それに添うようにしているが、意思表示の困難な人でも以前の思い等を家族に聞いてスタッフで検討している。 | 職員は利用者の思いや意向を聴き取り、職員全員が情報を共有し、出来るだけ利用者の希望に応えられるよう努めている。意向表出の困難な利用者については、これまでのアセスメントの見直しを行い、家族に相談し、職員間で検討しながら、利用者の思いを汲み取る努力をしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 毎晩、晩酌をしていた利用者にはそれを続けてもらったり、毎日、新聞を読んでいた人や牛乳を取っていた人は、個人で購入をして続けてもらっている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護日誌に日々の生活状態を記録し、気づきを書き込み心身状態をみんなで共有している。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の意見や要望を取り入れて介護計画を作成している。職員にモニタリングをしてもらい介護者の気づきを大切にプランの参考になっている。 | 利用者、家族の意見や要望を聴き取り、介護計画に反映させている。ケア項目に即したモニタリングを定期的に行い、職員の気づきを採り入れ、担当者会議で検討し、利用者本位の介護計画を作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて、介護計画の見直しをその都度実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 苑固有の物を作って個別の記録を記入し、スタッフも共有し介護の実践や見直しに生かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々の要望に応じて好きな物の買い物にお連れしたりしている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 花壇の手入れ、工作等、ボランティアの方々の協力で、利用者も参加して行っている。定期的なボランティアの訪問は、みんな楽しみにしている。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は、本人、家族の希望を大切に支援している。その際の情報を共有し病変などに往診等で迅速に対応してもらっている。 | 入居時に希望を聞いて主治医を決めている。現在、2名の利用者が、入居前からの馴染みのかかりつけ医に家族が同行して受診している。他の方は、協力医療機関による訪問診療を利用し、ホームの常勤看護師、経験の長い介護職員との連携により、安心の医療体制が整っている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 正看1名准看2名薬剤師1名を職員として配備し、かかりつけ医の医師も快く往診してもらったりして医療連携は充実している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 早期退院に向け病院の医師、看護師、ケアマネを交えて相談をする。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期はかかりつけ医や家族の意見を聞き、家族の協力もスタッフの支援力の一つとして納得してもらい出来る限り支援するつもりである。また、そのマニュアルもある。 | 重度化や終末期の方針については、契約時に、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と段階的に話し合い、主治医も交えて、今後の介護方針を確認し、関係者で方針を共有している。苑長、副苑長を中心とした職員のチーム介護で、利用者が納得のいく終末期を送ることが出来るよう、最善を尽くしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 誤嚥、転倒などの応急手当は苑長(看護師)の指導あり。また、消防署の救命講習も受けている。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中、夜間、火災時の避難訓練は年2回消防署指導のもとで行っている。地域の方々が避難場所として自宅を開放して頂けると申し出もある。非常食や毛布の準備あり。 | 年2回、6月と11月に、消防設備業者の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路や避難場所を確認し、利用者が安全に避難できるように取り組んでいる。また、非常食、飲料水、医療情報、緊急連絡先等を非常用持ち出し袋に用意し、いざという時に備えている。運営推進会議で、ホームの災害計画や避難訓練の報告を行う等、地域にも協力をお願いしている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉づかいや対応には人格を尊重し利用者さんに接している。トイレや入浴、居室訪問時のプライバシーにも配慮している。 | 利用者の人格を尊重し、プライバシーを守る介護サービスの在り方について、常に話し合い、「利用者の尊厳と権利」について研修で学ぶ機会を設け、意識づけを行っている。特に、排泄や入浴の場面や居室訪問時等には、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、苑長が職員に常に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ケアプランを立てる時には個人の思いや希望を聞いている。また、食事の内容にも好みや希望を取り入れる。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 朝の体操の時間に一人一人に今日は何がしたいかを聞き、外に出る事が好きな利用者さんや何もしたくない利用者、自室で新聞を読んだり等の希望に沿って実現に向けて努力している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日同じ物を着るのではなく自分で選べる人、そうでない人でも職員の支援で着替えを楽しんでいる。また、朝は整髪を支援している。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の好み、食べたい物を聞いて献立を立てている。また、食事の時は、毎回準備や片付けの手伝いもしてもらう。 | 食事は、利用者にとって一番の楽しみであることから、利用者の好みを聞いて、職員が作る美味しい食事を提供し、利用者と職員は同じ食事を一緒に食べている。食事の形態や盛り付け方等、利用者一人ひとりの状態に合わせて提供し、それぞれのペースで完食できるよう配慮している。エプロンを着け、包丁を握って野菜を刻む、生き生きとした利用者の姿も見られ、それぞれの力を活かせるよう支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日1,300キロカロリーを目標とし、水分は計量カップで計るなど徹底している。1日の水分量は1,200ml以上(汁物は除く)を目標に、レベルの低い人には飲水の介助をする。食事や水分の摂取量は記録を行っている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアのチェックをし、夜間は義歯を預かる。歯科については必要があれば往診してもらう。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各利用者ごと排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。夜間は3名のみオムツを使用するが、他の利用者はトイレやPTイレで排泄する。 | トイレで排泄することや、オムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がることから、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、なるべくトイレに行ってもらよう支援している。また、日頃から起立運動、自転車こぎ、散歩等、下肢筋力を鍛えるリハビリに取り組み、排泄の自立に向けた支援に繋げ、排泄用品の負担軽減を目指している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 腹部マッサージを行ったり、水分量の確認をしたり、服薬の調整や医師の診察を受けるなどの対応をする。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回の入浴では、入浴の順番を決め、一番風呂に平等に入れるように工夫している。原則として全員浴槽に浸かってもらう。 | 入浴は週2回を基本とし、入浴ノートを活用し、利用者が交代で一番風呂に入れるように支援している。原則として、全員浴槽に浸かり、ゆっくりと入浴の時間を楽しめるよう取り組んでいる。また、入浴を拒む利用者には、職員が交代して声掛けし、無理強いのない入浴支援に努めている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間眠れない利用者がいれば、和室でテレビを見たり、話したりして落ち着くまで対応する。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師の指示通りはもちろんの事だが、副作用の発現と可能性は十分把握して変化があるとすぐ中止し、医師に報告し指示をあおいでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自分で新聞を取ったり、計算や漢字ドリルに取り組んだり、自分の塗り絵を苑に展示している利用者もいる。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している | 法事や身内との外出に家族と協力して一緒に出かけたり、外出時の衣類の準備等支援している。 | 「生涯、自分の足で歩こう」をモットーに、リハビリに力を入れて取り組み、気候の良い時期には、毎日のようにホーム周辺の散歩に出かけている。「〇〇に行きたい」と言われれば、出来るだけ気持ちに添うように努力している。家族の協力を得て、買い物やドライブ、外出に出かけ、利用者の気分転換に繋げている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物に行ったり、診察での支払いは本人が窓口で出来る様支援している。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族から手紙など届いた際は、本人に渡し、お礼として電話をかけ本人がかわり、お話される。また、携帯電話を持っている利用者には、相手の番号の設定や充電の支援をしたり、手紙を書く利用者には投函の支援をしたりしている。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建築に詳しい苑長が日光が程よく入る様に苑を設計している。急な模様替えは避け、徐々に季節感を考え、夏などには苑で取れた野菜なども飾る。 | リビングルームの中心に、ホームのシンボルのような大きな楠の大木を設置し、取り付けした滑車で順番にリハビリに励む主体的な利用者の姿が見られる。畳の間に障子、押入れ、掘り炬燵、季節毎の作品の掲示や小物を飾ることで、家庭的な温もりと季節感を感じながらの暮らしを支援している。毎日の清掃、換気や除湿を徹底し、清潔な環境で利用者が心地よく暮らすよう支援に取り組んでいる。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ほぼ居間で過ごしているが、和室や少し離れた所に利用者が利用しやすい様にソファや椅子などを置いている。椅子は数多くあり自由に座れる。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個人の持ち物を、家族や自分が買い揃えて持ち込んでいる。馴染みのタンス、読みなれた本、家族写真、自作の絵など。 | 馴染みの家具や身の回りの物、大切な物等を持ち込んで貰い、身の回りに置く事で、利用者にとって、居室が安心できる場所となるよう配慮している。重度化しても安心、安全に過ごせるよう、高さの調節が出来る介護用ベッドを全室に配置している。毎日行う換気、清掃の徹底により、清潔な環境を整え、利用者が気持ちよく過ごせるよう支援している。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すり等あり。バリアフリー、照明、水道が自動センサー付きで切り忘れが無い。また、トイレ、風呂など分かりやすく表示し混乱を防ぐ。 | | |